

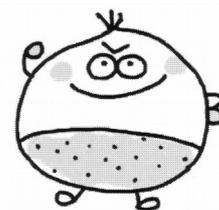
HDM推進会（第 35回）／ごみゼロネット推進会（第 57回）議事録

開催日： 2013 年 (H25 年) 2 月 13 日 (水) 10:00 ~ 12:00

場 所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 加藤、平林、大橋、杉本、川村、桐生（作成）

議 題：



1. HDM導入推進会の議事録の報告と検討

1/25 に開催された第 20 回 HDM 導入検討会の議事録案がごみ対策課より出されており、その内容について逐次読み上げ、内容を検討した。各項ごとに議論があったが、大筋で異論はなく、了承した。

2. 小金井市が相乗りを予定している日野市の新焼却設備の進展状況（加藤）

- 立地は多摩川と浅川の合流地点の三角地にあり、民家から離れた場所である。
- 既に東京都下水道局の下水浄化プラントがあり、更に奥地の方に現在も日野市クリーンセンターのごみ焼却プラントが稼働している静脈産業の集積地である。
- 日野市が観光の目玉としている土方歳三の墓所が近くにある。
- 「無責任な小金井市のごみだけは絶対に通さない。バリケードを張ってでも阻止する」と騒いでいるのは六つの自治会の内の一つだけである。
- 日野市は半径 500m 以内の全世帯 (1700 世帯) に市の職員が説得するローラー作戦を行っている。国分寺市と小金井市に建設費を分担させて日野市が運営するのは建設費でも運営費でも日野市の経済的メリットが極めて大きい。日野市は相当の覚悟で動き出している。

3. 町田市の情報（加藤）

- 町田市は生ごみ 2.4 万トンの内、1.9 万トンをメタン発酵させるバイオガスプラントを計画した。その残渣は焼却処理する。実態として一般家庭から出てくる生ごみから作った堆肥は農家は利用したがらないためである。
- 焼却プラントは処理量が減るため、次の最新型焼却プラントは処理能力を減らす。
- 資源ごみセンターを市内の 3ヶ所に設け、家庭での生ごみ処理を推進するなど、多面的なごみ処理プロセスを並行的に実施している。

4. 自由討議（約 80 分間）

- 日野市との共同処理が実現してしまうと、我々の HDM 処理の出番は当分（次期市長選まで）なくなる。
- 当面の出番はないにしても、次の機会に備えて、具体的な実行計画案を作成しておくべきでないか。（杉本）
- 二枚橋の跡地に屋根部は太陽光発電プラントとし、下を HDM プラントにする案は行政からの支持を受けるだけの魅力があると考えます。（平林）
- 二枚橋跡地に環境問題博物館を建設して、小金井市に人を呼び込む魅力ある施設とできないか。（大橋）
- ジャノメ跡地のペットボトル・金属缶の処理施設は新庁舎建設のため移設が必要だが、行き先は未定である。貫井北町の間処理場も何れ移設が必要となる。これらを二枚橋に移設しても、なお残りの土壌 HDM プラントを建設可能と試算している。（加藤）
- 自分はこれまでも具体的な計画を何回も出したが実らなかった。実行計画は桐生氏も出しており、なかったわけではない。また、単なるアイデアではなく、検討に耐える実行計画にするには「図面」と「数値」がきちんと入ったものにしないと、相手にされない。（加藤）

その他、議論は市長のリコール請求にまで展開したが、発散気味であったため、記録はこの程度にしておく。

日野市・国分寺市・小金井市の焼却炉による共同処理事業は一部の自治会の反対で難航しているが、日野市の不退転の決意で推進する姿勢から、何れ当初の計画通り実現するであろう。そうなればごみ処理に関する一切の議論は一時期棚上げとなる。その時に我々の活動はどうあるべきか。小金井市が生ごみ 3000 トンを微生物処理することも、処理量を減らしたくない日野市側からは不快に思われる可能性を排除できない。今回の市議選で、大部分の候補者がごみ問題に触れていないのは、既にそのことを織り込んでいたためではないか。

以上

次回打合せ： 3月13日（水）10：00～12：00 コミュニティサロン・はげ
1／1